

ことば便り



墨田区立押上小学校
校長 島田 和久
ことばの教室 NO. 8
TEL 03-3617-6925
令和6年12月2日(月)



音楽会や学習発表会など、秋の行事が行われた学校が多かったことと思います。押上小学校は音楽会でした。子供たちは「少し緊張した」「お母さんやお父さんに褒められた」等、嬉しそうに話してくれました。子供たちにとって成長する良い経験になったと思います。

ことばの教室の活動においては、保護者の皆様や在籍学級担任の先生方には様々な形でご協力していただき、誠にありがとうございました。今後も子供たちが意欲的に学習に取り組めるように支援していきたいと思いますので、来年もよろしくお願いいたします

11・12月の行事予定

3日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後) ※午後の指導はお休みです

4日(水)グループ指導(吃音)(15時半～16時半)

13日(金)個別指導終了日

12月 18日(水)学習発表会&お楽しみ会 (14:50～16:30)

21日(土)押上小土曜授業 25周年式典

23日(月)区小研[難言](午後)



7月(火)都難言協江東ブロック研究会(午後)

9日(木)個別指導開始

9日(木)～17日(金)保護者面談

1月 15日(水)グループ指導(吃音)(15時半～16時半)

18日(土)押上小土曜授業

21日(火)都難言協研究発表会(午後)

※午後の指導はお休みです

28日(火)都難言協研究発表会(午後)

※午後の指導はお休みです



学習発表&お楽しみ会 子供たちが準備を頑張っています！

日時 12月18日(水)
14:50受付開始
15:10～16:30
場所 押上小学校(体育館)

グループ(吃音)による吃音クイズや、いろいろクイズ、謎解き宝探しなどを行います。子供たちは、クイズやはじめの挨拶などを考えたり、台本を書いたりして頑張っています。今年もとても楽しい会になりそうです。



上履き、水筒、ハンカチ(タオル)
などの持ち物をお忘れ無く！

読み聞かせについて

ことばの教室では、絵本などを使って読み聞かせをしています。絵本には様々な種類があり、児童の実態や指導の目的に合わせて選んでいます。

物語



絵本にある世界を子供と一緒に見て、その体験を共有し、お互いが感じたことなどを語り合って楽しむことができます。また、子供が読み取ったことを担当者が言語化してあげ、ストーリーの内容を理解・整理できるようにしたり、感じたことを表現できるように助言したりします。この、感情を言葉にして表現することを心理学では、「感情のラベリング」と呼びます。「ラベリング」は、自分が感じたことによりしっくりする言葉はどれか、吟味し、試行錯誤する作業でもあります。自分が感じた感情を他者に伝えられることは、生活していく上でとても大切なことです。

見て楽しむ絵本

『ミッケ』（文：ジーン・マルソーロ）のように絵の中からある名詞の物を探したり、『言葉図鑑』（監修・制作：五味太郎）のように、動きを表す言葉（動詞）や様子を表す言葉（形容詞）のイラストを見て状況を楽しんだり、言葉に触れたりする絵本もあります。語彙力や表現力を高めるためにこうした絵本を活用します。

言葉の音の響きを楽しむ絵本

『大きなかぶ』（A・トルストイ）、『いいからいいから』（長谷川義史）やへんしんシリーズ（作・絵 あきやただし）のように、言葉の音の響きを楽しむ絵本もあります。言葉遊びを通して、言葉の面白さに気づき、関心をもてるようにしています。

季節の行事絵本

行事の由来や歴史、行事で使う道具の名称などについて調べることもあります。行事のことをよく知り、親しむことができます。

筆者が読んだ、とても面白いと思った本を読んであげると、関心をもってくることがありました。最近、本を読むのが嫌いと言っていた高学年の児童に、「この本は次どうなるのかドキドキして凄く面白いよ」と言って『あらしのよるに』（作・木村祐一）の読み聞かせをしました。読んだ後、「やっぱりつまんなかった」と言うのかと思いきや、「ヤギとオオカミは次、どうなるんだろう。次が楽しみだから次の授業でも読んで」と言って、楽しんでいました。筆者が大好きなおいしいラーメンを勧めるのと同じように、人との関わりを通して、読んでみるきっかけにもなるんだなと思いました。



言語聴覚士の中川信子氏は、以下のように述べていて、とても参考になりました。

Q 絵本の読み聞かせは同じ本を繰り返すより、いろんな本を読み聞かせる方がいい？

（前略）読み聞かせのときは、子どもが興味のある絵本を読むのが鉄則です。興味のないものは子供の学びに繋がりません。でも、そうすると同じ絵本ばかりになってしまいますので、たまには「こんなのもあるけどどう？」と違う絵本をお子さんに提案してみてください。楽しそうに見せてあげると、興味をもってくれるかもしれません。親側から、あの本を読みましょ、この本を読みましょと無理に読むのではなく、子供の世界を広げてあげるように絵本を紹介してあげるといいと思います。

ご家庭でも改めて、感動したり、とても面白いと思ったりした絵本や本をお子さんと一緒に読んでみていただければと思います。

文責：堤